



サンプル

2001年2月1日

XX XX 様

厳寒の候、XX 様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

XX XX 様のポートフォリオにつきまして、再度吟味致しました結果、特徴のあるポートフォリオだと思えます。すなわち、下げ相場には強いが、上げ相場にはついていけないとみられます。現ポートフォリオに至る経緯を多少ご報告頂いておりますので、今後はリスクを抑えながら長期的に利回りを追求するポートフォリオに移行できるのではないかと思います。

1月31日作成の一般論については2項目を削除いたしました。さっそく、検討事項についてご意見をいただきましてありがとうございました。一部銘柄が動いておりますので、別レポートで簡単に個別銘柄まで踏み込んで、ご提案させて頂きたいと存じます。XX 様のお好み、リスクに対する許容度、取引コスト、税金なども考慮させていただきます。

株式会社 コマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ
代表取締役 小松 徹



記

[2001年1月31日付けポートフォリオについて一般論]

1. 債券がない 株 100%は変動が大きい
2. 外貨資産がない 日本売りになった時のヘッジがない
3. 割安株・循環株の比率が高い 長期保有に適さない。売ることを前提に購入
4. 小型株・超小型株の比率が高い 業績変動リスク、株価変動リスクが高い
5. アナリストの推奨がない銘柄がある プロは何らかの理由で投資対象から除外
6. 2種類の投信は中身がほぼ同じ 分散効果が小さい

2001年1月31日付けポートフォリオの特徴

	成長株（投信を含む）	割安株（循環株を含む）
大型株	8%	4%
中型株	5%	2.4%
小型株	0%	1.6%
超小型株	4%	1.5%
現金		2.5%

（注）四捨五入の関係で全体は100%にならない

業種別比率

業種	比率
素材（化学・鉄鋼）	2.6%
機械	1.7%
ハイテク（投信を含む）	2.8%
自動車部品	4%
現金	2.5%



[修正ポートフォリオへの移行に関する検討事項：一般論と対比して列挙]

1. 1.5%の利札には興味がない、10年間保有したくない場合は購入する必要性は少ない。
2. ドル暴落の可能性があると感じる場合は買う必要はない。ユーロに馴染みがない場合も同様か。ただし、日本売りの可能性が高いと考える場合は10%程度保有してよい。
3. 割安株が割安な理由について、経営陣を含む会社の内容を分析した結果でない場合には売却の検討必要。循環株の買い場・売り場はプロでも困難。自分の考え方の根拠は大丈夫か。
4. 小型株は情報が十分に株価に反映されておらず、参加者も限られている。業績に関する最新情報を入手できる体制にあるか。他の投資家を知っているか。株価に影響力のあるアナリストの動向を把握できるか。
5. プロのアナリストがレポートを書いていない会社（プロ使用の情報端末でそれがわかる）については、投資対象にならない何らかの理由があるが、特別の情報を持っているか。
6. XXのXXファンドは1999年にたまたまトップの成績。当時、光通信やソフトバンクなどのネット株に集中投資したため。プロの目から見るとリスクを多くとっていたために、リターンも高く、その反動が2000年の結果となった。アメリカのウォールストリートで「昨年ワーストのファンドを買え、ベストのファンドを買わない」というおもしろい諺がある。しかし、良い成績のファンドは容易に売れるので、セールスマンは同じ物売り、ファンドマネジャーも同じ銘柄ばかり買う傾向がある。小型株ファンドを持つ必要はない。KPAのレポートを読んで自信がつけば、将来自分の好きな銘柄に投資すればよい。ファンドから毎年1.7%の信託報酬が引き落とされる。

以上